

## 6月定例記者会見 会見録

6月7日(木)11:15～

### 質疑応答

#### ■中心市街地まちづくりヴィジョンについて

##### 記者

中心市街地まちづくりヴィジョン案について、今後どのような形で市民に浸透させたりとか、どのような形で具体的な施策につなげていこうとお考えなのでしょうか。

##### 市長

5月20日にまちづくりシンポジウムを行いまして、そこでお示したヴィジョンというのは、人を中心にイラスト化して、中心市街地に来ればこんな体験ができるとか、こういう暮らしができるというものをビジュアル化したものですが、当然それは非常に抽象度が高いものであります。今後2段階で、まずはこのヴィジョンを描き、その後このヴィジョンに基づいて戦略を作っていく、目標を定めていくということをしてしたいと思います。例えば、中心市街地の目標人口であるとか企業数であるとか、あるいは働いている人の数であるとか、もう少し踏み込んでいくと、地元の野菜を使っているレストランの数であるとか、そういったものを、ヴィジョンに基づいて戦略を作っていくというのが、次のステップ。そしてその次のステップとして、その目標に基づいて個別のマスタープランを作っていく。例えば、この街区では、そのために何をするのか、この街区では何をするのか、といった、建物単位での設計をしていくということになります。一方で、クレオなどは、喫緊の課題がありますので、それは悠長なこと言っていると進まなくなりますので、同時並行的に取り組みを進めていきます。当然、そのヴィジョンを目標にしていく過程においても、市民といろいろな形での対話を積み重ねながら、市が作ったヴィジョンが市民に共有されるというよりは、市民と一緒にヴィジョンを作っていくんだというものにしていきたいですし、目標にしても同じように、みんなで一緒に作って考えていこうということが、一番浸透し、市民のものになる近道なのかなと考えております。様々な形でそういうような機会は作っていきたいと思っています。

##### 記者

ヴィジョンができた後、第2ステップ、第3ステップに進んでいくというお話があったんですけれども、第2ステップはいつまでに終わる、第3ステップは

いつまでに終わる、というスケジュール感はあるのでしょうか。

## 市長

まちづくりアドバイザーから繰り返し言われているのは、急いではいけない、ということなんです。もちろん喫緊の課題に対して対応はしますけれども、やはり3日で作ったようなものというのは続いていかないだろうと。市民と色々な形の対話を進めていって、時間をかけてやっていくということが非常に重要だと思っていますので、ヴィジョンの策定が終わりましたら、着手はしていきたいと思っています。着手はしていきますが、それをいつまでに作るというのは、まだ、その着手をしていく段階においてどの程度目安にするかというのは決めていく話かなと思っています。

## ■大瀬良アドバイザーについて

### 記者

大瀬良アドバイザーに1つお伺いします。世界のあしたが見えるまちの事例として、先ほどスタートアップ企業の呼び込みを中心にお話があったと思いますが、何本か柱があってこそその世界のあしたが見えるまちだと思いますので、次とか3つ目ぐらいで、ここがつくばの魅力なんじゃないかと思ってらっしゃることを言っていただけますか。

### 大瀬良アドバイザー

ありがとうございます。次という意味で言うと住みやすい環境みたいなところかなと思っています。スタートアップの人たちがどんどん働きやすい、新しいアイデアを出しやすい、起業しやすいみたいな環境だけでは、それこそつくばエクスプレスで日帰りで帰れちゃうような便利さがありますので、それをどうやって、今度は「つくばに残っていた方が面白いよね、それこそ人生として楽しいよね」というように思ってもらうために、暮らしの良さみたいなところもPRが必要だと思っています。僕も東京からつくばに通っていて、本当に緑が多くて空が広いなという風を感じています。毎日通うよりは、実は、もうちょっと泊まっていたいなと感じているところがあって、それでスタートアップの人達をはじめ、多くの人たちが、このつくばの住みやすさ、暮らしやすさみたいなところを、もっともっとPRをしていければなということは考えているところです。

### 記者

もう1つアドバイザーにお伺いします。私はたまたま高知の出身ですので、高知家の Youtube とかを大変面白いなと思って喜んで見ていたんですけども、やっぱりあれが成功したのはいろんな仕掛け、いろんなインパクトがあったからこそ注目されたんだと思うんです。先程の話は、就任間もないからだと思えますけれども、全体としてよく分かるし、まとまっていますけれども、高知家みたいなすごいインパクトのある話とか、注目されてこそそのプロモーションと思いますので、その点についてはどうお考えでしょうか。

### 大瀬良アドバイザー

ありがとうございます。もちろん最初のスタートのところでインパクトというところも、今いろんなことをやっているの、そういうところも考えていければなどは思っています。高知家が成功したと言ってくくださるのであれば、もし成功のポイントはどこかと改めて聞かれば、広末さんだったり、最初我々が用意したインパクトというよりも、県民の皆さんが高知家というものをサポートしてくださった、確かに高知県って家族みたいなところがあるよねっていうように、自分たちの体の中に入れてくれて、自分たちは高知家やきね、というのを県民の皆さんが自分自身の思いで言ってくれるようになったところが、すごく高知家が広まった一番のポイントだと思っているんですね。おそらく、つくば市の中に、ほんとにつくば市ってこういうところだよねってみんなが落とし込むこと、市長の話にもありましたけれど、市が勝手に言うのではなくて、市民と一緒に進めていけるっていう形が必要だと思っていて、それはまちづくりだけではなくて広報の中でも、同じような雰囲気というか、空気感の醸成みたいなものが、僕は必要だと思っています。

### 記者

アドバイザーの大瀬良さんに質問なんですけれども、最近の広報の成功事例とか失敗事例、日本中が関心持っている日本大学のアメフトの監督とコーチの記者会見ですね。実は、あれを仕切った米倉さんは共同通信でしたけれども、1時間40分にわたる広報を、彼は大学側の広報担当者、広報職員という立場で仕切ったわけですが、一方でメディアとか質問する側はもうちょっと話聞かせろということで、メディアからはかなりたたかれた。新しいアドバイザーとして、つくば市の立場になり、米倉氏の失敗事例、私は成功事例だと思っているんですけども、あれを見て、プレスとの対応についてどういう風に感想を持っていますか。

### 大瀬良アドバイザー

他社の広報方針等に僕が口を出す身分ではないので、その部分は差し控えさせていただきますと思いますが、僕はプレスさんとのコミュニケーションは、できる限り密に取らせていただきたいと思いますし、この後、名刺交換等もさせていただきたいと思うんですけれども、気軽にお電話・メールでいろいろなお話ができればなと思っております。記者の皆さんにいかに記事を書いていただくことが、PRとしては大事だと思っているので。お互いの理解の食い違い、考え方の違いが生まれると、いろいろトラブルにつながりかねないので、いろいろなお話ができればと思っています。

## ■時差出勤について

### 記者

職員の時差出勤なんですけれども、時差出勤をやるメリット、東京都内だと通勤時間が1時間、2時間電車で通う方がいらっしゃったりですね、早くだと座っていけるだとかそんなメリットがあるのかなと思うんですけど、これをつくばでやることのメリットがちょっとピンと来ていないので、お教えいただきたいです。通常の勤務時間により勤務する職員、対象が1,100人ということですが、これは市の職員の何割ぐらいに当たるのかということと、時間を4つの区分にしてあるんですけど、これは対象の職員の意向を反映してするものなのか、それとも機械的に市が、あなたはこの時間帯にしなさいっていうようにするものなのか、その割り振りの基準なんかを教えてくださいたいと思います。

### 市長

詳細は担当からお話ししますけれども、例えば、夜どうしても仕事が入ったりする職員もいるわけですね。いろんな会議があったり、19時から会議が設定されるようなことも、どうしてもあります。そういう際に、遅れて出社をすることによってワークライフバランスを保っていくことになったり、あるいはもっと早く来て、少し早い時間に帰ることで、例えば男性の職員が保育園のお迎えなんかに行ってしまうなと思っていますけれども、そういうような形でワークライフバランス含めて仕事のやり方というのを考えていってもらえる機会にもできるんじゃないかというように思っております。基本的には担当課内で調整をしていく話になりますが、補足説明等担当課お願いします。

### ワークライフバランス推進室長

補足させていただきます。まず、メリットは、ただ今、市長が申しましたように、職員のワークライフバランス、例えば想定利用シーンとしては、職員のお子さんの送迎時に利用していただくとか介護施設への送迎等々を想定している

ところでは、職員の割合は、正規職員でいうと約 58%程度になると思います。割り振りについては4種類設定し、1・2については、理由を問わず、職員の申告に基づいて業務に支障のない範囲内での利用が可能となっています。3・4については、対外業務の都合による場合のみ所属長が割り振るというようになっているところでは、

#### 記者

つまり、1と2は職員の希望で、お子さんの送迎とかご高齢の家族の方の送迎なんかに利用されるんだけど、3と4は所属長が必要な業務を絞ってやっていくということですかね。

#### ワークライフバランス推進室長

はい、そのとおりでございます。

#### 記者

時差出勤というのは、取り組んでいるのは県内では初めてですか。県庁でやっていたような気もするんですが。

#### ワークライフバランス推進室長

はい、県は今年4月から、時差出勤を大幅に拡大してらっしゃるということは聞いております。県内の自治体でも、時差出勤というのはいくつかやられているようですけれども、この表でいう2番の「9時30分から18時15分」という、職員の都合により遅出出勤を割り振るというパターンは、私どもで調べた限りでは、県内の市町村では初めてかな、と思っておるところです。

### ■つくば中心市街地まちづくりビジョンなどについて

#### 記者

まちづくりビジョンについて、市長に伺いたいのですが、先ほど、ステップ2のところで、数値目標を様々に定めるという、人口ですとか、事業数ですとかと仰いましたが、狙いについて教えていただけますでしょうか。というのは、数値目標はメリット・デメリットあるとは思いますが、例えば、数値目標達成が最優先になってしまうですとか、そういった場合に俯瞰的なまちづくりが数値だけで進められてできるのかとか、そういうこともあるかもしれませんので、その狙いについて教えてください。

## 市長

おっしゃるように数字ありきのもの等にするつもりはありません。大事なことは、あそこで描かれているヴィジョンを実現することですので、ただ、そのためのマイルストーンがないと、何をもってそれが実現できたのか、できなかったのかというのが、なかなか判断ができないと思いますし、こういう方向に、例えば、今地元の食材を使っているレストランはほとんどないけれども、何店舗くらいあればそのヴィジョンが地元のレストランが普通の食事ができるねと市民に思ってもらえるようになるかというような、およその目安として数字を持っておくことが必要だろうと思っております。あまりリジッドにはそれを考えられるものでもないですし、数値目標自体も非常に難しい話だとは認識しております。ただ、そうであっても持とうということなので。どういう数字が入ってくるか、ということは、まだ正直見えていないところですし、そういうことも含めて議論したいなと考えています。

## 記者

もう1点、シンポジウムで出ていましたけど、ポータランドの例ですと、40年かけてまちづくりをしていったと。今回、まちづくりヴィジョンですと、この戦略なんかも相当長期的な物なのかなと思うんですけども、長期的な観点からして、市長という任期がある立場として、どういうふうに長期的に責任を持ってコミットしていくかということをお聞かせください。

## 市長

確実に40年後は市長ではないですけども、市長が変わっても生き続けるようなヴィジョンが必要だと思うんですね。それは、トップダウンで、例えば、私がこうしたいといったものを何か作ってしまえば、当然、別の人になった時に、あれは五十嵐がやった、五十嵐のヴィジョンであって、市民のヴィジョンではないですけども。作る過程で市民がそこに関わって作ってれば、それは誰が市長になろうとも息づいていくものなんだろうと思います。先日、持続可能都市ヴィジョンというものを発表しましたが、普遍的な価値というのは、誰であろうと、よっぽどゆがんだ思想であったり、古すぎる発想であったりすれば別ですけども、そういったものを、ゆがんだ人が今後つくばの市長になるとも思えませんので、しっかりと作る過程において、市民を巻き込んでいくというか、本当に市民と一緒に作ることによって、そこに正当性を与えられるんじゃないかなと思っております。

## 記者

立地適正化計画について、つくば駅の周辺を都市機能誘導区域にするということなのですが、説明会の方で、周辺の住民からは、最近市役所が研究学園にあるように、つくば駅周辺が軽視されているんじゃないかというような意見が相次いでいたんですが、クレオの件やこのまちづくりのヴィジョンを含めて、中心部をどのようにしていくかといったところの市民の不安の払しょくについてどのように考えているかお聞かせください。

## 市長

まさにこの都市機能誘導区域に唯一つくば駅周辺を設定したということが、1つの意思表示だろうと思っております。当然、研究学園駅周辺は、発展はしてきていますけれども、今喫緊の課題として我々が取り組むべきことは、やはりつくば駅の周辺ですし、そのために、この立適を定めることによって、使えるプログラムが増えていたり、補助金が有利になっていくということから、優先順位を高めてつくば駅周辺をまず、取り組んでいくんだということです。ただ、つくばの中心はどこなんだという質問に対しては、長期的には、つくば駅と研究学園駅と両方が核となってくるということまでは、今、庁内でもおおよその共有事項として話をしている所であります。

## 記者

その辺も合わせてお伺いしたいんですけども、今まちづくりヴィジョンがあって、この度、未来構想の方のヴィジョンも若手チームを集めて検討がスタートしたということもあるんで、いろんな計画が同時進行的に進んでいるんですが、その辺どういうように、今おっしゃったような2つの地域を中心にするというような話もありましたが、それを具体化・具現化していくのでしょうか。

## 市長

若手に未来構想の案を考えてもらいますけれども、やはり具体化をどうするかの前にやはり、私はヴィジョンありきだと思っておりますので、ヴィジョンができて初めてそこに向かっていく手法だったり、具体的なプロジェクトレベルの話が出てくるんであらうと思います。でするので、正直どんなヴィジョンが出てくるのかわかりませんが、非常に私が楽しみにしているところなんです、それに基づいて、じゃあ次にそこに向かっていくステップを考えるような、同じ様な手順になるんだと思っております。ただ若手もただ思い付きをやるようなわけではなくて、立適も当然読み込むでしょうし、今までの未来構想も読み込むでしょうし、中心市街地のまちづくりのヴィジョンについても当然検討の中には入ってくると思います。そういったものも合わせながら、先日の持続可

能な都市ビジョンであるとか、SDGs とか、いろんな概念がありますので、そういうものを合わせていて、バラバラになったり、一貫性がないという事はなないようにしたいと思います。

## ■大瀬良アドバイザーについて

### 記者

大瀬良さんにお伺いしたいのですが、全体的なコンセプトは分かったのですが、これから詰めていくところだとは思いますが、具体的なコンタクトポイント、こういったターゲットに、どうリーチしていくのかという今の段階のアイデアを教えてください。

### 大瀬良アドバイザー

はい。本当にいろいろと考えているところなので、根拠なくお伝えすることはできないのですが、ターゲットみたいなところだと、スタートアップ推進室だったり、科学技術振興課だったり非常に力が入っています。まさにスタートアップ企業やテクノロジー事業、Society5.0 みたいなところを含めて、非常につくば市が力を入れているなあという風にこの2カ月通ってみて感じたことですね。ここと広報が別々に動くという事は、考えられない、あり得ないなと思っていて、ぜひ実際に部局の皆さんがやっていることを広報としてアウトプットして、一緒に広めていければなど、つくば市がそういう所に力を入れているということを一緒に広めていければなど今考えていたりします。

### 記者

大瀬良さんにお伺いしたいと思います。最初のご挨拶の中で経歴とか、これからどういうことをしたいとお話があったかと思いますが、なぜつくば市のまちづくりアドバイザーになったのかその辺の経緯を詳しくお願いします。

### 大瀬良アドバイザー

5年から10年前のつくばではありますが、つくばのことを知っているところ、そして2012年からおよそ6年間、地方あるいは政府のPRをずっと現場で関わってきたというところ、そして年齢としてもまだ現役というところ。実際に若い人たちは僕の世代、小さい子供を持つ世代ですので、そういった人たちの気持ちも理解しながらPRしていく上で力になれることがいくつかあるのではないかと考えております。

### 市長

私が補足をしますと、つくば市も私が就任してから様々な取り組みを行っていますし、いい施策も、各課で行っております。やはりこれから、関係人口も含めて、どうつくばに注目を持ってもらえるかというようなことが非常に重要なことだと思っております。ただ、それがやはり、どこまでいっても行政では限界があるなということを感じていました。良いことをやっても発信できなければ、つくばの魅力を多くの人に感じてもらうのはできないという中で、プロフェッショナルは絶対に必要だという思いでいろいろ考えていたところに、大瀬良氏のとりわけ地方自治体での活躍や、官邸の広報を劇的に変化させた手腕に非常に魅力を感じまして、依頼をして引き受けていただいたというような経緯であります。

#### 記者

市長の方から官邸での実績や高知県での実績を踏まえて、お声かけをしたというようなことですか。

#### 市長

はい。

### ■公文書の管理について

#### 記者

全然今日の関係事項と関係ないんですけれども、4月からつくば市で公文書の管理指針を作られて、運用されて、専門職の方2人も来ているということで。国の方でも改ざんであるとか、意図的な廃棄が課題になっているんですけれども、市長もご覧になってどう思われているかというところと、市として独自に取り組んでいるところをもう一度改めてコメントしていただければと思います。

#### 市長

はい。私があ公文書に力を入れたのは、今回のような国の問題がある前からのこととして、そもそものきっかけは、やはりあの運動公園の問題に関して、当時の市長とURのトップとの会談のメモが一切残っていないということが原点です。やはり重要な意思決定が行われたことがその後全く検証できないようであっては、非常に良くないと思いましたが、公文書というのは民主主義の根幹を成すものだと思っておりますので、2人採用していかななくてはできないだろうと、ということで今、国立公文図書館のご指導を仰ぎながら、やはり日本の

モデルとなるような公文書管理を、きちんとつくばからしていこうというような取り組みを進めているところであります。

#### 記者

国の方でもいわゆる森・加計問題である公文書管理は、日本では体制が全然無いというところがかなり問題になっていますが、その辺先見の明があったと思うのですがどうでしょうか。

#### 市長

つくば市ではこういう問題がありましたので、私もいろいろな議員時代から仕事をしたりする中で、やはりあの記録が残っているかないかっていうのは、大きな判断材料でありますし、行政と言うのは公の仕事ですので、それが市民から見て、その意思決定過程がブラックボックスになっているというのは、決して望ましい形では無いだろうと考えております。もちろん、機密情報とかです、出せないものがあるということは当然理解をしておりますけれども、もうオープンにしていくことの方が、結果として行政を前に進める上でもプラスになると思いますし、長い目で見ればその方がスピード感もあるんであろうと。結果的にももちろん時間はかかりますけれども、コミュニケーションコストをかけてでも、そこでしっかり開いていくということが今後の行政のスタンダードになっていくんじゃないかとは思っております。

#### 記者

一応これまでも、管理法があって指針の作成になってると思うのですが、まだ指針の段階であって実効性があるかないか、これから条例化ができるかどうか、その辺りせっき専門職の方もいて、これが実行できない取り組みになると、もったいないと思うのですが、その辺どのように取り組んでいかれますか。

#### 市長

まずは指針を運用していったって、そこで当然課題等見えてくるでしょうし、逆にどういようなことを取り組んで行けばというのが見えてくると思っておりますので、将来的な条例化は、当然議会でもお答えしているように視野には入れていますけれども、まずはしっかりと運用してみているいろいろな課題等を把握してみたいと思っておりますし、今新しく採用した2人も、国立図書館との連携の様々な中で動いていますので、こういった知見をいろいろといただきながらじっくり進めて行きたいと思っております。

## ■竹園三丁目について

### 記者

竹園三丁目の JAXA が持っている土地を買って欲しいという市民からの要望あったのですが、3月議会でもこれは買うつもりがないと市長明言されていたのですが、要望が出て改めてどうですか。

### 市長

皆さんのお気持ちと言うのは非常によく分かるところです。やはり竹園三丁目再開発の話があって、その時にやはり大きくあの場所が動くというようなことを地域の皆さんがそういう話を聞いたわけですね。ですので、まだ、やはりそういう思いが、私もよく地域の皆さんにあれほど私たち頑張ったのにということをいただいて、それは私も申し訳ない気持ちでもあります。ただ私が就任してからいろいろ話を聞くと0円だった市の持ち出しが学校まで含めると40億、50億という話になっているというような中で、しかもその計画が庁議で1度も協議をされていないというような非常に意思決定過程としてもやはり、不適切なものであった、不適切と言う言葉が正しいか分かりませんが、そのようなものでありましたので、それは白紙にしました。当該土地については、やはり、目的を持って購入をしないことには、運動公園の用地とやはり同じになってしまうのではないかというような思いを持っております。15億円ほどになりますので、じゃあ何か開発されないために取り急ぎ買いますかという、運動公園用地がまさにソーラー発電の引き合いがありますよ、なんて言われて慌てて、あの時議会で1票差で購入になりましたけども。種類は、ちょっと方向性は、違うかもしれませんが、やはり問題の本質としては同じことになってしまうのではないかというのは1点ですね。もちろん、一方で、竹園三丁目があのまま良いというようには考えておりませんし、児童館が確かに老朽化しているような状況であったり、湿気がこもったり、というような状況で、除湿機を取り急ぎ取り入れたりとか、必要な修復はやっていきたいと思っています。今広場の辺りについても、どういう風にしていけるか考えているところです。ただ同時に筑波都市整備があので、筑波都市整備もやはりクレオの件が今最大の件案事項ですので、なかなか、都市整備もあそこで何か積極的に動けるかという、おそらく、そこまでの状況にはなっていないのかなという事は考えております。ただ、住民の皆さんの思いというのは、あのエリアをやはり何とかしてほしいということをお話していて、それは学校が狭いとかそういうことについては、今あの小中一貫校教育の検証と言うのを教育局で進めています。これがおそらく7月中には方向性が出るであろうと、そし

てあの人口推計等々、詳細に今後行って学校の配置計画というのを、方針を出していきます。このための人口推計が年内には遅くとも出ると思うんですけども、これで将来の人口予測等を詳細にした上で、では、あのエリアをどのような学校の配置にすることが、1番子供たちにとって良い形になるのかというのを、現実的なオプションから選んでいくことになるんであろうと思っております。そういったような総合的なところから、なかなか今すぐですね、土地を購入すると言うのは正直難しいと思いますし、これは私が述べる範囲では無いですけども、私ども議会にも説明ができないなあという風を感じております。

#### 記者

そうすると結局、すごく市長いろいろ思いを語ってくださったんですが、端的に言って買うつもりがあるのかないのかって言うと、なかなか目的がはっきりしないので買わないという意味にはお変わらないということですよ。

#### 市長

買いたくても買えないということですね。無料でいただけるのであれば今すぐお願いに行きますけれども、なかなかそうではなくて、現実的にはなかなか難しいというような認識です。

(了)